

1 題材名 日本と世界の音楽に親しもう

教材名 鑑賞 「雅楽『越天楽』」から（日本古曲）

表現 『越天楽今様』（慈鎮和尚作歌 日本古謡）

鑑賞 「バグパイプの演奏」「メヘテルハーネ」「アルフーの演奏」「フォルクローレ」
「ガムラン」

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (1) イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

[共通事項] ア (ア) リズム 速度 旋律 拍の流れ

B 鑑賞 (1) イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

[共通事項] ア (ア) 音色 リズム 速度 拍の流れ

(1) 題材観

2020年の東京オリンピックまで3年を切った今日、各分野で日本のよさを世界にアピールしようとする動きがある。音楽の分野においては、日本の伝統音楽や西洋から取り入れた音楽、明治期以降に新たに形成された音楽、民俗音楽など重層的に発展してきたそれぞれを、さらに発展・充実させる時期にきている。その中で学校音楽教育では、鑑賞や体験を重視した伝統文化教育が望まれている。我が国の伝統文化や芸術のよさを知り、それを伝えられるようになれば、それは世界の文化をも愛好する気持ちにつながっていくと考えられる。

本題材は、学習指導要領A表現の内容(1)イの「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」B鑑賞の内容(イ)の「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと」に関する学習内容である。鑑賞で、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取った後、歌唱表現の工夫に生かすことをねらいとしている。

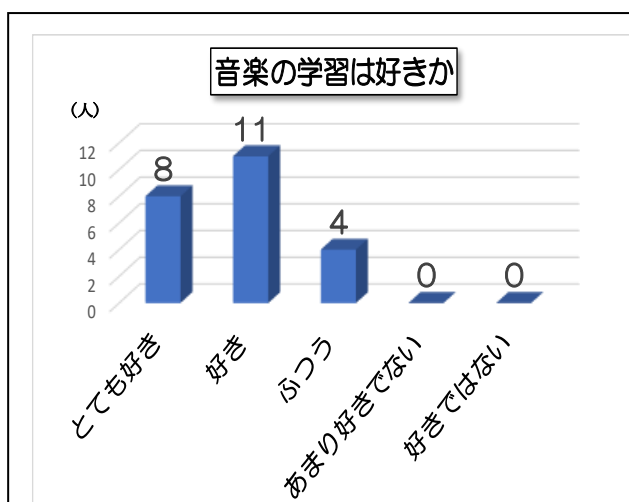
我が国の伝統音楽の特徴は、西洋の音楽と比べると、音色やリズム、拍の流れがわかりにくいなど、大きく違うところがある。その違いをよさとして認めた上で、さらに世界のいろいろな国の音楽に触れれば、全ての音楽のよさを感じ取ろうとする意欲につながると考えた。

市教研音楽部会の研究主題「生涯にわたって音楽を楽しむことができる児童・生徒の育成～9年間を見通した音楽科の学習指導～」は、小・中学校9年間の学びの連続性の中で、児童・生徒が生涯にわたって音楽と関わり、楽しさを見出せる力を身に付けることができるようにするための、指導方法の探求を目指している。そのためには、音楽を生活の一部にしたり、身近な音楽に早い段階で触れさせたりすることが大切である。9年間の学びの中で、身近な我が国の伝統音楽と関わるとともに、音楽への興味・関心を他国の音楽にも広げることで、様々なジャンルの音楽のよさや楽しさを感じ取る力が身に付くと考え、本題材を設定した。

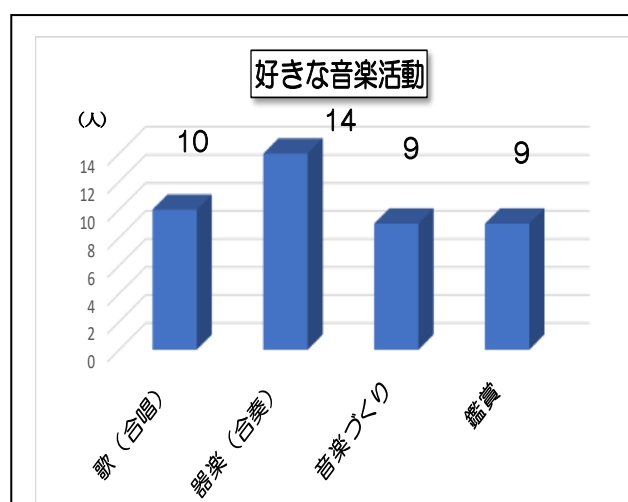
また、本校の研究主題「夢を広げ、明るく、たくましく生きる子どもの育成」を受け、音楽科は「一人一人が意欲的に音楽の美しさや楽しさを味わいながら、生き生きと表現する子どもの育成」を研究主題に設定した。本題材で扱う我が国の伝統音楽の美しさや楽しさを味わうことで、その特徴やよさを自分の表現に生かし、さらにこれからの表現の幅が広がることで、研究主題に迫ることができると考えた。

(2) 児童の実態 (男子13名 女子10名 合計23名)

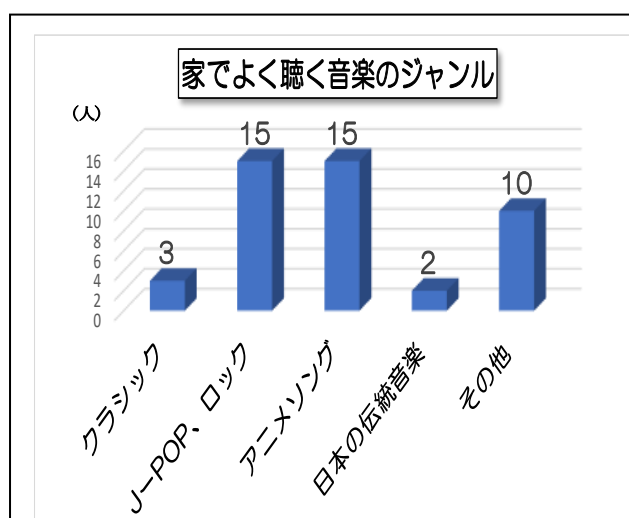
本学級の児童は、常に落ち着き、集中して音楽の学習に取り組むことができる。音楽の授業に対する興味・関心は高く、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞のどの内容でも真剣に取り組み、力をつけてきた (グラフ1・2)。



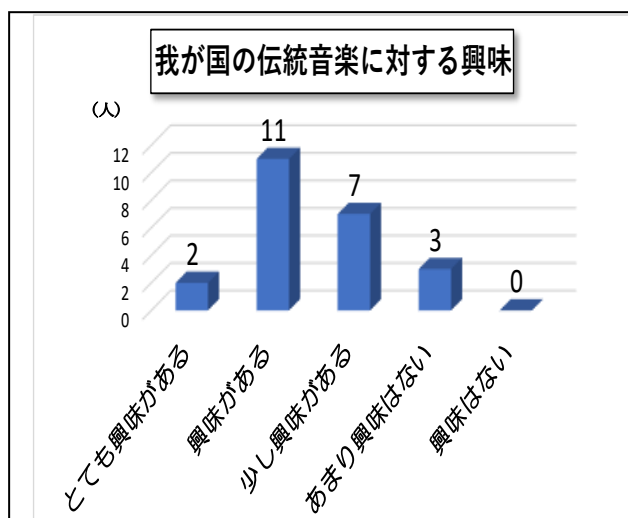
【グラフ1】



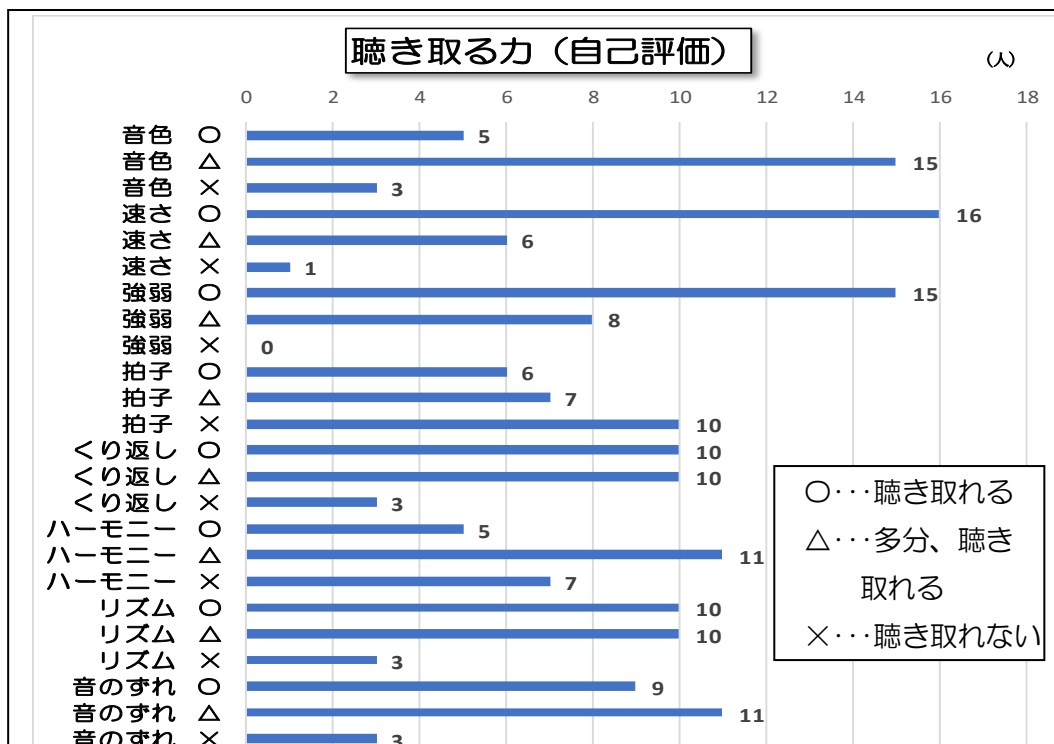
【グラフ2】



【グラフ3】



【グラフ4】



【グラフ 5】

〈考察〉

児童が生活の中でよく聴く音楽は、ポップスやアニメソングが多い（グラフ 3）。普段の生活の中で、日本の伝統音楽に触れる機会はほとんどないが、4年生の時の三味線や締太鼓、5年生の時の箏の学習から、我が国の伝統音楽の学習への興味・関心は高い（グラフ 4）。

鑑賞の能力については、速度、強弱、リズム、音のずれに関しては、聴き取ることができると自己評価する児童が多い一方で、拍子やハーモニーの聴き取りは苦手とする児童が多い（グラフ 5）。我が国の伝統音楽の特徴である、音色、速度、音のずれやリズムを聴きとることはできると答える児童が多いため、本題材でねらう我が国の伝統音楽の特徴を感じ取る力は、あると考えられる。しかし、拍子の聴き取りは苦手と答える児童が多いため、本題材の学習で伝統音楽独特の拍子感にも気付かせたいと考える。

(3) 指導観

『越天楽』は、雅楽を代表する曲として、我が国では広く知られている。『越天楽』にはもっとも一般的な「平調」の他、「盤渉調」と「黄鐘調」の曲があり、それぞれ違う雰囲気音楽として親しまれている。

児童はこれまで、箏や三味線、和太鼓の演奏や『春の海』の鑑賞など、我が国の伝統音楽に触れてきた。また、これまでにオーケストラで演奏される曲を鑑賞してきた。しかし我が国の伝統音楽であり、世界最古のオーケストラと言われる雅楽に触れるのは、今回が初めてである。

また『越天楽今様』は、雅楽『越天楽』の旋律に歌詞をつけたもので、今に残る日本の最も古い歌謡とされている。日本の伝統的な音階による簡潔で優雅な旋律や、ゆったりとした歌い方など日本の音楽の雰囲気を感じ取りやすい。

鑑賞曲である雅楽『越天楽』は、拍子の取りにくい、ゆったりとしたリズムと楽器の独特な音色、楽器同士が少しずつずれて演奏することをよしとするなど、我が国の伝統音楽の特徴を捉えやすい。また、それらの特徴を生かして『越天楽今様』を歌うことにより、我が国の伝統音楽の雰囲気やよさを感じ取ることができる。と考える。

本題材では、まず雅楽『越天楽』の鑑賞で特徴やよさを感じ取った後、それを生かして『越天楽今様』を歌い、我が国の伝統音楽に親しむ。その後、いろいろな国の楽器による音楽を鑑賞することにより、我が国の伝統音楽の特徴やよさについての見解をさらに深められると同時に、同じ視点による鑑賞により、他国の音楽の特徴やよさを感じ取れるようになる。と考える。

本時は、我が国の伝統音楽である雅楽の学習の導入の鑑賞である。児童はこれまで、オーケストラの曲をはじめ、民謡や箏・尺八に代表される和楽器の合奏曲を鑑賞したり、それを生かして表現したりしてきたが、雅楽に触れるのは本時が初めてである。

雅楽に代表される日本の伝統音楽の特徴として、音色（非楽音も楽音）、拍子感（何拍子かわからない）、リズム（ずれ）、速度（ゆったりしている）などの要素が、西洋の音楽と違うことが挙げられる。この要素が「日本らしさ」につながり、楽曲のよさにつながると考える。

我が国の伝統音楽と西洋の音楽の違いを捉えさせるため、本時では雅楽『越天楽』とオーケストラの演奏による『越天楽』を比較鑑賞する。オーケストラの演奏は、テンポが原曲より速目で、4分の4拍子を感じ取ることができる。また原曲のような非楽音的な音の演奏はなく、普通のオーケストラの編成における楽器の音色である。これらの比較鑑賞により、雅楽『越天楽』の音楽的な特徴を感じ取り、そのよさに迫れる。と考える。「よさ」という言葉は曖昧で、児童が捉えにくいと考えられるため、「よさ」＝「人に紹介するとき、伝えたい魅力」として、まとめる。

また映像でも比較鑑賞することにより、楽器の構成は似ていることや、指揮者がいないことに気付くことができる。我が国の伝統音楽は、呼吸や間合いで合わせる事が多く、その集中力と緊張感も、特徴として感じ取れる。と考える。

鑑賞の際は児童一人一人にワークシートを配付するが、気付いたことや感じ取ったことを友達や全体と共有するために、グループでの話し合いの時間を取ったり、発表で出た意見を実物投影機の画面を用いてまとめたりする。

第2時は、雅楽『越天楽』の旋律に歌詞を付けた、『越天楽今様』の歌唱表現である。初めに、『越天楽今様』を鑑賞し、雅楽『越天楽』と旋律が同じであることに気付かせる。その後、歌詞の意味を理解しながら歌うが、ただ歌うだけでは単調になりがちな楽曲であるため、前時で学習した「我が国の伝統音楽の特徴」を生かして、ゆったりと滑らかに歌ったり、旋律の揺れを付けたりして、さらに我が国の伝統音楽の雰囲気を出せるように表現を工夫する。

また楽譜を見ながら、「日本らしさ」を醸し出している特徴に、律音階が使われていることにも気付かせたい。これまで学習してきた民謡も、5音音階でできていたが、それと同じく5音でできていることから、第1時で捉えた音色や速さ、リズム、拍子感に加え、旋律を構成している5音音階と、曲の雰囲気とのつながりも感じ取らせたい。

第2次第1時は、楽器による世界の民族音楽の学習である。第1次第1時で学習した我が国の伝統音楽と比べて鑑賞し、楽器の音色や速度、リズムについて、似ているところや違うところに関心をもって鑑賞させたい。

鑑賞する5曲は世界の様々な地域から選曲されているが、雅楽の箏箏と同じ管楽器であるケーナ（ペルー「folklore」）、同じくリード楽器であるバグパイプ（イギリス）やズルナ（トルコ「メヘテルハーネ」）、琵琶と同じ弦楽器であるアルフー（中国）、鞆鼓や鉦鼓のような打楽器の合奏であるガムラン（インドネシア）と、雅楽の学習とつながる内容が多い。

この学習で、我が国の楽器と世界の国々の楽器を比べ、似ている楽器があることに気付くことで、我が国の音楽文化を大切にしようとする気持ちを育てるとともに、他国の音楽文化も尊重する態度を養いたい。また、このような気持ちや態度は、中学校における世界の諸民族の音楽の学習（1年生：アジアの諸民族の音楽、2・3年生：世界の諸民族の音楽）にもつながっていくだろう。

- 3 題材の目標 ○日本に古くから伝わる音楽の特徴を感じ取ったり、それを生かして歌ったりする。
○楽器による世界のいろいろな国の音楽に親しみ、そのよさを感じ取る。

4 題材の評価規準及び学習活動の具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組んでいる。 ・曲想とその変化などの特徴、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさに興味・関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。

5 研究の視点について

【視点2】 小中連携を関連させた題材構成

雅楽『越天楽』は、中学校の教科書にも掲載されている教材曲である。このように、小学校と中学校で、教科書に同じ楽曲が掲載されている場合、「小学校では、何をどこまで指導するか」「中学校では、さらに何を指導するのか」というように学習を関連させた、系統的・発展的な指導計画が必要となる。今回は、小・中学校における雅楽『越天楽』の指導の流れを、以下のように考え、指導していく。

【小・中学校それぞれにおける『越天楽』の学習と、捉えさせたい内容】

校種・学年	教材曲	捉えさせたい内容
小学校 第6学年	雅楽『越天楽』 『越天楽今様』	<ul style="list-style-type: none"> ・音色…伝統独特な音色。かすれたような音もする。 ・リズム…各楽器が、ずれて演奏している。 ・速度…ゆったりとしたテンポ。 ・拍の流れ…何拍子かわからない、拍子感のない音楽。 ・その他…指揮者はいないが、呼吸を合わせている。
中学校 第3学年	平調『越天楽』 舞楽『陵王』から当曲 能『羽衣』から	<ul style="list-style-type: none"> ・音色…楽器の音色や独特の響きを感じ取り、歴史や背景と関連付けている。 ・リズム…打ち物にはリズムパターンがある。 ・その他…雅楽を伴奏に、舞が付くものがある。 ・能は舞楽に似ているが、歌が入り、使う楽器が少し違う。

【日本と世界の音楽の学習の流れ】

	小4	小5	小6	中1	中2	中3
オーケストラ						→
民謡 『こきりこ』 三味線など					長唄・歌舞伎『勸進帳』 文楽『野崎村の段』	→
箏・尺八 『春の海』				箏曲『六段の調べ』 尺八曲『巢鶴鈴慕』		→
			雅楽 雅楽『越天楽』			雅楽・舞楽・能 平調『越天楽』 舞楽『陵王』 能『羽衣』
	日本と世界の音楽に親しもう～ 声による世界の国々の音楽～ 「ヨーデル」「ホーミー」 「ケチャ」「ゴスペル」	楽器による世界の国々の音楽 「バグパイプ」の演奏 「マテルハーネ」「ア ルフーの演奏」「folk ローレ」「カムラン」	アジアの諸民族の音楽 「オルティンダー」「カッ ーリ」「ゲーチン」 「タンリ」	世界の諸民族の音楽 「ジンジュ(京劇)」 「ヨーデル」「シタール」 「チャランゴ」	世界の諸民族の音楽 「マテルハーネ」「バラフ オン」「ロマの音楽」「マ リアチ」「カムラン」	

小学校で指導したい内容を感じ取らせるため、鑑賞では『越天楽』のオーケストラバージョンとの比較鑑賞をする。こちらは、普通のオーケストラの楽器で演奏されており、音色の違いや4拍子の感じ、楽器のずれの少なさを聴きとることができる。この比較鑑賞から違いを捉え、それぞれのよさを感じ取ることにつなげることができると思う。また演奏風景の映像を見比べると、雅楽には指揮者が存在しない。指揮者はないが器楽合奏が成立する理由を考え、周りとの息を合わせて合奏する、我が国独特の間の取り方にも注目させたい。

6 題材の指導計画及び評価計画

次	時	○学習内容 ・主な学習内容	評価規準
		ねらい 雅楽『越天楽』を鑑賞して気付いたことや感じ取ったことを特徴やよさとして捉えるとともに、それを生かした表現で『越天楽今様』を歌う。	
1 次	1 〔本 時〕	<p>○雅楽『越天楽』とオーケストラの演奏による『越天楽』を映像で鑑賞し、気付いたことや違い、よさを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を鑑賞し、演奏の形態や楽器について確認する。オーケストラの楽器と比較し、構成している楽器の種類は共通していることを確認する。 ・雅楽とオーケストラのそれぞれの違いから、その音楽のよさを考える。 <p>○雅楽『越天楽』を聴き、音楽の特徴や楽器の響き曲想を、感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の楽器の音色や速度、リズム、旋律の反復などを、これまで鑑賞してきたオーケストラと比較しながら聴く。 ・気づいたことを発表し合う。雅楽とオーケストラを比較しながら、違いを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想とその変化などの特徴、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさに興味・関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度） ・音楽を形づくっている要素を聴きとり、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。（鑑賞の能力）
	2	<p>○『越天楽今様』を聴き、雅楽『越天楽』の旋律が使われていることに気づき、その特徴を生かして歌唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『越天楽今様』を聴き、雅楽『越天楽』の旋律が使われていることに気付く。 ・歌詞の意味を理解し、範唱に合わせて歌う。 <p>○雅楽『越天楽』の音楽の特徴を参考に、『越天楽今様』の歌い方を考えて歌唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽『越天楽』の学習で出された、雅楽のよさを生かして歌唱表現を工夫するには、どうしたらよいか話し合う。 ・我が国の伝統音楽のよさを生かしたリズムや速度、旋律の動きを生かして、工夫した謡い方でのびのびと歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組んでいる。（関心・意欲・態度） ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。（音楽表現の創意工夫） ・歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。（音楽表現の技能）

	ねらい いろいろな国の音楽を聴き、我が国の伝統音楽との違いに気付くとともに、その特徴やよさを感じ取る。	
2 次	1	<p>○イギリス、トルコ、中国、ペルー、インドネシアの音楽を聴き、それぞれ曲の楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気の違いを感じ取る。</p> <p>・それぞれの国の音楽を聴き、楽器の音色の特徴や音楽の雰囲気など、気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。</p> <p>○それぞれの国の音楽の特徴[音色、リズム、反復、変化など]や演奏のよさを感じ取って聴く。</p> <p>・視聴覚教材があれば比較確認し、我が国の伝統音楽との違いに気づき、伝統音楽と諸外国の音楽それぞれの特徴やよさを確認する。</p> <p>・それぞれの国の人々が大切に伝えている音楽のよさを味わって聴く。</p>
		<p>・曲想とその変化などの特徴、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさに興味・関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)</p> <p>・音楽を形づくっている要素を聴きとり、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。(鑑賞の能力)</p>

7 本時の学習 (1/3)

(1) 本時の目標

○日本に古くから伝わる音楽である、雅楽の特徴を感じ取る。

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
5分	1 歌唱により、音楽の学習への雰囲気づくりをする。 ・ リクエスト曲を歌う。	○ 伴奏を弾きながら児童の表情を確認し、よい表情で歌っていたり、音楽にのって歌っている児童を称賛したりする。
2分	2 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">日本の伝統音楽である雅楽の特徴を感じ取ろう。</div>	
5分	3 雅楽『越天楽』の最初の部分鑑賞し、気付いたことを発表する。 (CD① ～3分04秒まで)	○ 雅楽『越天楽』の最初の部分を聴かせ、気付いたことをいくつか発表させる。発表の内容を、ホワイトボードにまとめる。 ・ 音色、リズム、速度、拍の流れ(拍子)など、音楽を形づくっている要素を、児童の発表に合わせて提示していく。

5分	4 オークストラの演奏による「越天楽」の最初の部分を鑑賞し、旋律の特徴を聴きとる。 (CD② ～1分54秒まで)	○ オークストラの演奏による『越天楽』の最初の1分程度を聴かせ、気付いたことをいくつか発表させる。 ・ 「オーケストラの演奏なのに、和風」などの意見が出た場合は、なぜそのように聴こえるのか、理由を音楽の要素を基に考えさせる。
5分	5 雅楽『越天楽』を鑑賞する。 ・ 気づいたこと、感じ取ったことを、ワークシートにメモする。	○ ワークシートに、気付いたことや感じ取ったことを、要素別に記入できるようにする。
15分	6 雅楽『越天楽』を聴いて、気付いたことや感じ取ったことをグループで確認し合い、要素に沿って発表する。 ・ 雅楽『越天楽』の楽曲の雰囲気と、それを醸し出す要素との関係を考えながら鑑賞する。	○ グループ内で意見を出し合い、発表で出されたことを、テレビ画面でまとめる。 ・ 意見を付箋に記入させる。 ・ 実物投影機を用いて画面にまとめる。 ・ 出された意見を、実際に音で確かめる。
5分	7 映像で雅楽の舞台を鑑賞し、共通するところや違うところを見つける。	○ 映像で雅楽の舞台の演奏を流し、オーケストラと似ているところと違うところを見つけるようにする。 ◆ 曲想とその変化などの特徴や音楽を形づくっている要素の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (鑑賞の能力) (発表・ワークシート)
3分	8 雅楽とオーケストラの比較を通して、それぞれの特徴からよさを考える。	○ 雅楽の特徴＝我が国の伝統音楽の特徴＝よさとして、雅楽や我が国の伝統音楽のよさをまとめる。

8 参考資料

(1) CD

- ①雅楽『越天楽』・・・「小学生の音楽6 H27～鑑賞用CD」 教育芸術社 2015
 ②オーケストラによる雅楽『越天楽』・・・「越天楽のすべて」 King Record 2002

(2) DVD

- ・「子どものための雅楽 雅楽ってなあに？」・・・伶楽舎 2016